

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		図書購入整備事業		担当課		生涯学習課		(3) 指標の推移		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
				担当係	図書館管理係		活動指標 (実施状況)		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	
				予算科目	会計	款	項	目	備考	実績		実績		実績		
まちづくりアソシエーション (基本目標)	振興計画体系	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと伝統・文化のまち	予算科目	1	10	4	8		ア	冊	6,500	6,500	5,000	4,000	4,000
(個別目標)	2	多様な志を育むまち	主な費目	消耗品費、委託料、使用料及び賃借料			イ									
(施策)	1	生涯学習の推進	対象	志布志市民及び市内に就学・就職			成果指標 (成果・効果)		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	
(基本目標)	総合戦略	3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる					ア	冊	4	5	5	5	5	5	
(施策)	5	こころざしアップ教育推進プロジェクト	事業期間	平成9年度～平成10年度(2年間)			イ									
(1) 総事業費の推移		単位	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	(4) 評価							
			(実績・決算)	(実績・決算)	(実績・決算)	(計画・予算)	(計画・予算)	(計画・予算)	所管課による評価							
年間トータルコスト	事業費	千円							有効性評価	<ul style="list-style-type: none"> ・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性 						
	財源内訳	千円				990	990	990								
	国県支出金	千円														
	その他特定財源	千円														
	一般財源	千円	8,583	7,824	7,990	6,000	5,000	5,000								
	事業費計 (A)	千円	8,583	7,824	7,990	6,990	5,990	5,990								
人件費	人	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100			効率性評価	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育、生涯学習の概念から、事業効果は容易に測れるものではないが、読書環境における”紙離れ”の状況下において、市の人口減に対して大きな乖離ない状況にあることから、必要施設である事は間違いない。 ・図書資料の整備に努め、本好きな子どもを育てる環境づくりをするためには、蔵書の充実は必要不可欠であり、事業費の削減は難しい。 						
所要人員 (年間)	人	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100										
人件費概算 (B)	千円	560	560	560	560	560	0									
(A) + (B)	千円	9,143	8,384	8,550	7,550	6,550	5,990		達成度評価	<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間 						
(2) 事業概要																
事業目的	・生涯学習の拠点施設として市民サービスの充実を図るため、図書資料を購入し、図書館機能を推進する。							達成度評価	<ul style="list-style-type: none"> ・図書購入は引き続き週単位で図書を購入し書籍資料の収集に努め、利用者のニーズに応じていく。同時に電子書籍の導入についても時代に即した対応が求められており、推進するに当たってはその意義を共有し利用状況の検証を行いながら予算等の確保に努める必要がある。 							
事業内容	・年間をとおして図書資料を購入し、本館及び5分館並びに移動図書館の蔵書の充実を図る。購入する図書資料は主に職員全員で選書し検討する。並行して、利用者のリクエストも受け付けている。また業者からの見計らい依頼に対し、現物を見ながらの選書も行っている。年1回蔵書点検を行い、不明本の確認をし、図書の整備に努めている。同時に延滞本の連絡を行い登録者の確認もしている。															達成度評価
開始経緯	・図書購入は平成9年図書館の開館にあわせて開始され、平成18年合併後志布志市立図書館本館、並びに5分館において事業継続している。							達成度評価	<ul style="list-style-type: none"> ・図書購入は引き続き週単位で図書を購入し書籍資料の収集に努め、利用者のニーズに応じていく。同時に電子書籍の導入についても時代に即した対応が求められており、推進するに当たってはその意義を共有し利用状況の検証を行いながら予算等の確保に努める必要がある。 							
実施状況	・市民に常に新しい図書資料の情報を提供するため、本館及び分館並びに移動図書館車「がらがらちゃんしずえ号」それぞれに新刊本の購入を行い、蔵書の整備充実を図った。また、新刊案内については広報誌やホームページで随時紹介を行うとともに、館内では季節ごとにテーマ図書のコーナーの設置やベストセラーや書評などの紹介に努めている。															達成度評価
成果	・図書館全体の蔵書の整備充実が図られ、利用者に常に新しい図書資料の情報提供ができたことにより、幅広い図書館の利活用に繋がっている。 ・ホームページへ大活字本の紹介をするなど随時適切な更新を行い周知に努めている。							達成度評価	<ul style="list-style-type: none"> ・図書購入は引き続き週単位で図書を購入し書籍資料の収集に努め、利用者のニーズに応じていく。同時に電子書籍の導入についても時代に即した対応が求められており、推進するに当たってはその意義を共有し利用状況の検証を行いながら予算等の確保に努める必要がある。 							
課題	・蔵書は増加状況にあるため、適切な閉架書庫管理の為、月例ミーティング等を通して読書指導員等と協議しながら除籍基準に基づいた適切な除籍に努める必要がある。除籍後は、ブックリサイクルなど学校や地域公民館への利活用をお願いしている。															達成度評価
										○ 拡充	現状維持	改善	効率化	廃止終了		

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		ブックスタート・セカンドブック・サードブック事業 (ブック贈呈事業)		担当課		生涯学習課		(3) 指標の推移		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度		
				担当係	図書館管理係		活動指標 (実施状況)		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)		
まちづくりア (基本目標)	振興計画	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと伝 統・文化のまち	予算科目	会計	款	項	目	備考	ブックスタート購入セッ ト数	250	250	240	150	150	150	
(個別目標)	2	多様な志を育むまち	主な費目	報償費						セカンドブック事業対象 者数	303	271	270	260	260	260	
(施策)	1	生涯学習の推進	対象	0歳児及びその保護者と新1年 生 市内小学校6年生						成果指標 (成果・効果)	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	
(基本目標)	3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる	事業期間	H16 年度～ 年度 (年間)						ア 実配布率	率	100	100	100	100		
(施策)	3	子育て支援プロジェクト								イ 小学1～3年生貸出冊数	冊	20,000	20,000	20,000	20,000		
(1) 総事業費の推移		単位	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	(4) 評価	所管課による評価							
年間 事業 費 タ ル コ ス ト	財源内訳	国県支出金	千円						有効性 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性 							
		その他特定財源	千円														
		一般財源	千円	779	719	871	1,212	1,212									1,212
		事業費計 (A)	千円	779	719	871	1,212	1,212									1,212
		所要人員 (年間)	人	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025									0.025
		人件費概算 (B)	千円	140	140	140	140	140									140
		(A) + (B)	千円	919	859	1,011	1,352	1,352									1,352
(2) 事業概要										<ul style="list-style-type: none"> ・市内すべての新生児及び新小学校1年生を対象とし、子どもの発達段階に応じて、興味のある1冊の本との出会いを途切れることなく続けられ、また本を通して親子の絆を深め、本好きな子どもを育むために実施されており、子どもの読書活動の推進につながっている。 ・成長段階に応じた読書のきっかけづくりや習慣化を支援することに期待ができる。 							
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート事業は、絵本を介して0歳児を対象に親と子の心のふれあいの時間を持つためのきっかけをつくる事を目的としている。 ・セカンドブック事業は、県内発の事業であり、子どもたちの発達段階に応じた本に出会うことにより、読書に親しむ機会と生涯にわたる読書習慣を身につける事を目的とする。 ・サードブック事業は、市内小学校6年生の卒業時に中学生生活にむけた心構えとして「心に響く一冊の本」を贈り将来への豊かな心が育まれることを目的とする。 									<ul style="list-style-type: none"> ・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携 							
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート事業は、保健課が実施する4ヵ月健診時に合わせて、絵本と貸出バックのプレゼントや、図書館ボランティアによる絵本の読み聞かせと図書館の利用案内を行う。セカンドブック事業は、小学校新1年生にベスト20冊の中から、それぞれが興味のある1冊を選んでもらい、プレゼントする。また、プレゼントの際に教育長が代表校に出向き、読み聞かせを行うなどしている。更に成長段階に合わせた取組みとして、中学校生活に向けた心の準備としてこの時期に読んでほしい本を学校図書館司書、図書館読書指導員が選書した本の中から1冊を選んでもらい小学校卒業時に贈呈する。 									<ul style="list-style-type: none"> ・本事業は、親と子の絆を本を介して深めて貰う事や、生涯を通じての読書推進であったりなど、情操教育の一環であるのでその明確な数値目標は困難であるが、小学1～3年生の貸出冊数等で推し量る事としている。 ・ブックスタート事業に参加頂いている読み聞かせボランティアグループからは、大変距離の近い形で密接な読み手と聞き手の関係があり、この事業への参加意義は大変大きいとの意見を頂いているが、今年度もコロナ禍のため中止 							
関係 開始 経緯	<ul style="list-style-type: none"> ブックスタート事業は、読書の必要性と子育て支援を目的に合併前の平成14年度から開始され、セカンドブック事業は、ブックスタートのフォローアップ事業として平成25年度から開始、更に令和5年度から教育総務課が小学卒業記念予算としていたものをサードブック事業へ移行し卒業生に贈呈。 									<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢・環境の変化 ・事業期間 							
実施 状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート事業は、旧志布志町が実施していた事業であったが、合併して市全体が事業対象となったが、対象の3、4ヵ月児の数は、少子化で少しずつ減少してきている状況にある。 ・セカンドブック事業は、活字離れがさげられている今、子どもたちの発達段階に応じた本に出会うことにより、読書に親しむ機会を与え、そのきっかけを創生している。 ・サードブック事業は、2月実施予定。 									<ul style="list-style-type: none"> ・拡充 ○ 現状維持 改善 効率化 廃止終了 							
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、ブックスタート事業により親子の絆を深め、本好きな子どもを育むために実施されており参加率も高く、会場での保護者からの評価は非常に高い。また平成25年度より、小学1年生を対象にセカンドブック事業にも取り組むことにより、さらに子どもの読書活動の推進につながっていくことになる。 ・読書の推進を図る上で大変有効と学校からも喜ばれている。 									<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート事業、コロナ禍のため4ヵ月健診が縮小（読み聞かせなし）となっていたが、令和5年度から対面での活動を再開している。少子化により出生率は減少しているが、市内全ての親子に確実に届けたい事業である。 							
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート事業において、コロナ禍であったり、様々の事情により4ヵ月健診に参加されない乳児、保護者が見られる事から、手元に確実に届ける必要がある。 																

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		図書館管理運営事業		担当課	生涯学習課				(3) 指標の推移										
				担当係	図書館管理係				活動指標 (実施状況)		2年度 3年度 4年度 5年度 6年度 7年度								
				予算科目	会計	款	項	目			備考	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	
まちづくりプラン (基本目標)	振興計画	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと伝統・文化のまち		予	1	10	4	8		ア	貸出冊数	円	180,000 152,038	150,000 162,523	160,000 155,644	170,000	170,000	170,000
(個別目標)	画面体系	2	多様な志を育むまち	主	主な費目				需用費、委託料、工事請負費使用料及び賃借料外	イ	新規利用カード登録者	円	550 493	500 473	530 423	550			
(施策)	体系	1	生涯学習の推進	対	対象				図書館本館及び分館	成果指標 (成果・効果)									
(基本目標)	総合戦略	3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる							ア	来館者	人	90,000 57,357	55,000 65,408	60,000 67,734	80,000	90,000	100,000	
(施策)	戦略	5	こころざしアップ教育推進プロジェクト	事	事業期間				平成9年度～ 年度 (年間)	イ	一人あたり貸出冊数	冊	4 4	5 5	5 5	5			
(1) 総事業費の推移		単位	2年度 (実績・決算)	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (計画・予算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	(4) 評価										
年間 トータル コスト	事業費	千円							有効性 評価	所管課による評価 ・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性 ・地域でも随一の規模を持つ本館施設のほか、分館施設があり市民はもとより、市内に就学・勤務される方など広く多数の方に利用頂いている。 ・他事業に類似性等は無く、また図書館法に基づき原則利用は無料であることから、利用者に公平性を保っている。 ・適切な読書環境を提供するため施設の維持管理は重要である。									
	財源内訳	千円	959	688	64	3,150	0	0											
	国県支出金	千円																	
	その他特定財源	千円	17,913	19,747	57,248	69,974	12,074	12,074											
	一般財源	千円	18,872	20,435	57,312	73,124	12,074	12,074											
	事業費計 (A)	千円	18,872	20,435	57,312	73,124	12,074	12,074											
所要人員 (年間)	人	0.400	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携 ・図書館運営の持つ特殊性として、レファレンスや書籍案内、読み聞かせなどの業務において、司書資格などの専門性が求められる。 ・利用者の利便性に配慮し、土日祝日にも開館し、おはなし会や隣接する志ふれあい交流館を活用しアニメ上映会など交流の場を提供している。										
人件費概算 (B)	千円	2,240	1,680	1,680	1,680	1,680	1,680												
(A) + (B)	千円	21,112	22,115	58,992	74,804	13,754	13,754												
(2) 事業概要										達成度 評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間 ・敷地内の樹木の伐採を実施。 ・随時施設の補修等に対応しながら、維持管理に努めた。 ・施設修繕は、雨漏等の屋根防水等改修工事を令和4年度実施できた。令和5年度は空調機・照明(LED)の更新工事を実施する。								
事業目的	・図書館の円滑な運営と利用者のサービス向上を図り、快適な読書環境を提供するために、施設の維持管理に努める。																		
事業内容	・維持管理に伴う各種委託契約等に関する全ての業務を行うとともに、所蔵図書及び相互貸借本の貸出しや返却業務、お話し会等各種イベントを行う。																		
開始経緯	・平成9年開館とともに事業開始。 ・施設が存する限り、利用者の利便性は確保した上で、安心、安全を念頭に置いた維持、管理等が必要となる。																		
実施状況	・施設の運営、文書管理、勤務調整、会計年度任用職員の雇用、施設の維持管理に関する委託及び賃貸借契約等事務など。									改革 改善案	拡充 現状維持 ○ 改善 効率化 廃止終了								
成果	・最適な施設の維持管理と環境づくりが図られた。また、新型コロナウイルス感染症対策として、書籍消毒機や空気清浄機等を活用し、利用者に安全安心で快適な読書環境を提供することができた。										・年次的な改修を行い、施設の適切な維持管理に努める。								
課題	・平成9年の開館から26年を迎え、館内各所に老朽化による不具合等が生じてきているので、年次的に整備していく必要がある。																		

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		電子図書館運営事業		担当課		生涯学習課		(3) 指標の推移											
				担当係		図書館管理係		活動指標 (実施状況)		単位	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度			
				予算科目		会計	款	項	目	備考	活動指標 (実施状況)		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)
まちづくりプラン (基本目標)	振興計画	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと伝統・文化のまち	予算科目		1	10	4	8		活動指標 (実施状況)		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)
(個別目標)	画面体系	2	多様な志を育むまち	主な費目		役務費・使用量及び賃借料・備品購入費				活動指標 (実施状況)		単位	(目標)						
(施策)	1	生涯学習の推進	対象		志布志市民及び市内に就学・就職		R5		年度～年度 (年間)		成果指標 (成果・効果)		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)
(基本目標)	総合戦略	3									結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる	成果指標 (成果・効果)		単位	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
(施策)	5	こころざしアップ教育推進プロジェクト	事業期間		R5		年度～年度 (年間)		成果指標 (成果・効果)		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)
(1) 総事業費の推移		単位	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	(4) 評価		所管課による評価								
			(実績・決算)	(実績・決算)	(実績・決算)	(計画・予算)	(計画・予算)	(計画・予算)	有 効 性 評 価		・withコロナにおいて非来館型のサービスとして電子書籍の導入は有効な手段であり、自動読上げ機能や文字拡大機能など選定できることから幅広い活用が見込まれる。 ・文科省のGIGAスクール構想による1人一台のタブレット端末を持つ児童生徒の利用に際し学校との取組の連携を図ることで、市内の子どもたちの読書環境の選択肢と不読世代の利用率向上が図られると思われることから、読書格差の是正にもつながる。								
年間	財源内訳	千円																	
事業	国県支出金	千円																	
費	その他特定財源	千円				4,160	4,000	4,000											
タ	一般財源	千円				2,200	0	0											
ル	事業費計 (A)	千円	0	0	0	6,360	4,000	4,000											
コ	所要人員 (年間)	人				0.100	0.100	0.100											
ス	人件費概算 (B)	千円	0	0	0	560	560	560											
		(A) + (B)	千円	0	0	0	6,920	4,560	4,560	効 率 性 評 価		・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携							
(2) 事業概要																			
事業目的	・非来館型サービスとして電子書籍を導入し、いつでも・どこでも・誰でも利用できる電子図書館の運営に取り組む。																		
事業内容	・コンピューターのデータベースを利用したウェブサイト上の図書館で、開館日や閉館日を気にせず、いつでもインターネットを通じて閲覧・貸出・返却が可能になる。また、市内学校と連携しタブレットを活用した児童生徒の読書環境の選択肢の拡大や文字を読むことが困難な方々に対しても読書の機会を提供できる環境とする。																		
開始経緯	・電子図書館（書籍）の導入については、国の推進するDX（デジタルトランスフォーメーション）、「GIGAスクール構想」等、デジタル社会に対応した読書環境の整備が求められており、国の子どもの読書活動の推進に関する法律に基づき策定される第五次の計画において「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」いわゆる読書バリアフリー法を踏まえた多様な子供たちの読書機会の確保と読書環境の充実といった取り組みが求められている。withコロナにおいても、非来館型のサービスとして、いつでも・どこでも・だれでも利用できる運用と利用者の拡充に努める。																		
実施状況	令和5年10月運用開始予定																		
成果																			
課題																			
		○ 拡充		現状維持		改善		効率化		廃止終了		図書館各種のイベントや事業の取組みについて積極的な情報発信に努める。							